

死角

停車中のバスに注意

バスから降りて、 横断の小学生男児が バスを追い抜くように来た車に・・・はねられ 重体 停車していたバスが、 死角を生み出す

2018.6.12

1日午前7時10分ごろ、高知県の県道で、徒歩で横断歩道を渡っていた男児に対し、交差進行してきたクルマが衝突する事故が起きた。男児は意識不明の重体となったが、手前に止まっていた路線バスが双方の死角を作り出してしまったとみられている。

☆☆☆

横断歩道はあるが、信号機は設置されていない。9歳の男児は路線バスから降車し、前方にある横断歩道を徒歩で渡っていたところ、バスを追い抜くようにして右方向から交差進行してきた軽乗用車にはねられた。

男児はクルマの直撃を受け、弾き飛ばされるようにして転倒。近くの病院へ収容されたが、頭部強打で意識不明の重体となった。クルマを運転していた女性（67）にケガはなく、警察は自動車運転死傷行為処罰法違反（過失傷害）容疑で事情を聞いている。

現場は見通しの良い区間だが、停車していたバスが双方から死角を作り出していたものとみられ、警察では事故発生の経緯を詳しく調べている。

☆☆☆

男児はバスから降車し、前方に回りこんで横断を開始したため、バスを追い抜いて右方向から交差進行してきたクルマが見えていなかった可能性が高い。

クルマ側からもバスが死角を作り出し、左方向から飛び出してきた男児に気づくのが遅れたものとみられる。